DIARY

W. Norton

この日記はゲームを解く上でのヒントになっています。キミには日記の持つ重要性がわかるかな。また、昭和63年6月1日から8月31日まで、ホームズ探偵事務所に電話をかけるとゲームのヒントを教えてくれるぞ。

ご注意

- ご使用後はACアダプタをコンセントから必ず抜いておいてください。
- テレビ画面からできるだけ離れてゲームをしてください。
- 長時間ゲームをする時は、健康のため、約2時間ごとに10分～15分の小休止をしてください。

株式会社トーワチキ
〒101 東京都千代田区岩本町2-18-14
（藤井ビル）
ホームズ探偵事務所 TEL.(03)866-5999

6月18日

遺跡の調査は順調に進んでいる。わたしを含めた7人のメンバーも張り切ってはいるがたいした発見がないのが残念だ。明日はどこまで進むだろう。今頃、ベロニカは何をしているだろう。1日も早く帰って笑顔を見てみたい。

6月19日

今日で遺跡の調査も5日目。インドの暑さには参ってしまう。しかし……。いや、これは書いておかなければいけない。どんなにつらくても……。

遺跡の奥に秘密の部屋を見つけたのだ。しかも、その部屋は目もくらむような宝物であふれそうなのだ。わたしはもちろんのこと助手の二人も声が出ないほど驚いた。ああ、それにしても何てことをしてしまったのだろう。わたしたちは前後の見境もなく、宝物を運び出してしまったのだ。金銀はいうに及ばず、宝石に、像などの美術品まで。

部屋の奥に祭壇があるのを見つけたのは確か道案内役のシンだった。

「神の宝を持ち出すものは、その命であがなえ」

シンは震えた声で祭壇に書かれてあった文字を読んだ。

「宝は返した方がいい」

シンの声にうなずいたのは、わたしと将軍だけだった。二人の助手たちも荷物運びの男も素直にうなずく気はなかったようだ。そのとき、あいつが……。そう、あいつがあんなことを言い出さなければ。それにしても、なんて男だろう。欲に目がくらんだのか、もともと凶悪な男だったのか……。

しかし、なぜだ。なぜなんだ。なぜあんな残酷なことが……。しかも、心臓まで……。シンの絶叫が今でも耳に残っている。

ああ、もう、これ以上書き続けることはできない。わたしもあいつと同罪なのだ。殺人を止めることもできず、しかも持ち出した宝物の内、美術品を預かってしまったのだから……。死ぬまでわたしは罪の意識に苦しむだろう……。もし、シンがわたしの前に現れたら、どうやって罪の償いを……。